

企業
情報

管建設株式会社
業種：建築・土木業
従業員規模：11～50人

課題
分類

業務プロセスの効率化
社内の働き方改革

DX実践の
目的

サプライチェーン

公共事業の見積作成・工程管理のデジタル化による業務効率化、対応案件増加

課題
内容

- 公共事業や個人向け住宅の建設を行っている。公共工事の入札には、必要な情報の入力が複雑で時間がかかっていた。また、入札内容の変化に対応できず、見積り金額の精度にばらつきが生じていた。
- 落札後の工程管理は、手作業でExcelに入力していたため、進捗把握や遅延対応が難しく、出来高管理も不十分だった。
- 工事写真や進捗記録を事務所に持ち帰って、紙やExcelで管理していたため、負担が大きかった。

実施
概要

- 工程管理システムを導入し、過去の工事のデータを蓄積し、入札時の見積作成に利用できるようにした。また、受注後は、入札時に入力したデータを自動で読み込むようにした。
- 報告書のフォーマットを統一した上で、工事の進捗を項目ごとに現場で記録し、写真と紐づけて管理できる仕組みを構築した。

効果

- 過去の類似工事データを活用し、より正確な一貫性のある見積りが可能になった。見積書作成時間が数時間から30分程度に短縮されたことで、対応できる案件数が増加した。
- 進捗状況をリアルタイムで把握できるため、遅延の早期発見や適切な人員配置、正確な出来高の管理ができるようになった。
- 写真整理や報告書作成のために事務所に戻る手間がなくなり、時間が大幅に短縮された。

苦労話

システム導入当初、担当者がデータ入力の方法に戸惑いがあったため、従来のExcel管理と並行運用しながら、徐々に新システムに移行した。現在は担当者全員がスムーズに活用できるようになった。



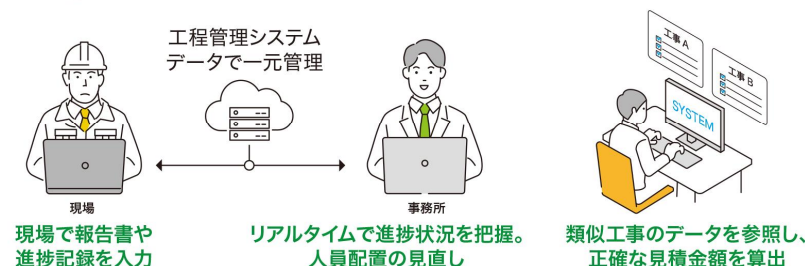
Point

- ・過去データの活用により見積作成時間が大幅に短縮した
- ・工程管理のデジタル化により、適切な人員配置や出来高管理が可能になった

【導入前】手作業でのデータ入力の負担と関係者間の情報共有が課題



【導入後】工程管理のデジタル化で「見える化」と報告作業の効率化



業務効率化

対応案件増加

補助金活用

—

IT
ツール

【使用ツール】デキスパート <https://www.kentem.jp/product-service/dekispарт/>
 【取り扱い企業】株式会社建設システム（KENTEM） <https://www.kentem.jp/>
 【ツール概要】約30種類のソフトから構成される土木工事の施工管理トータルソリューションシステム。技術提案から電子納品までの業務をトータルでの管理が可能